

2017年12月期 決算説明資料

サイオス株式会社
(東証二部 : 3744)
2018年2月5日

目次

- I 2017年12月期 業績の概要**
- II 2017年12月期の取り組みの振り返り**
- III 2018年12月期の取り組み**
- IV 中期損益計画および通期業績予想**



2017年12月期 業績の概要

2017年12月期 業績（連結）



(単位：百万円)

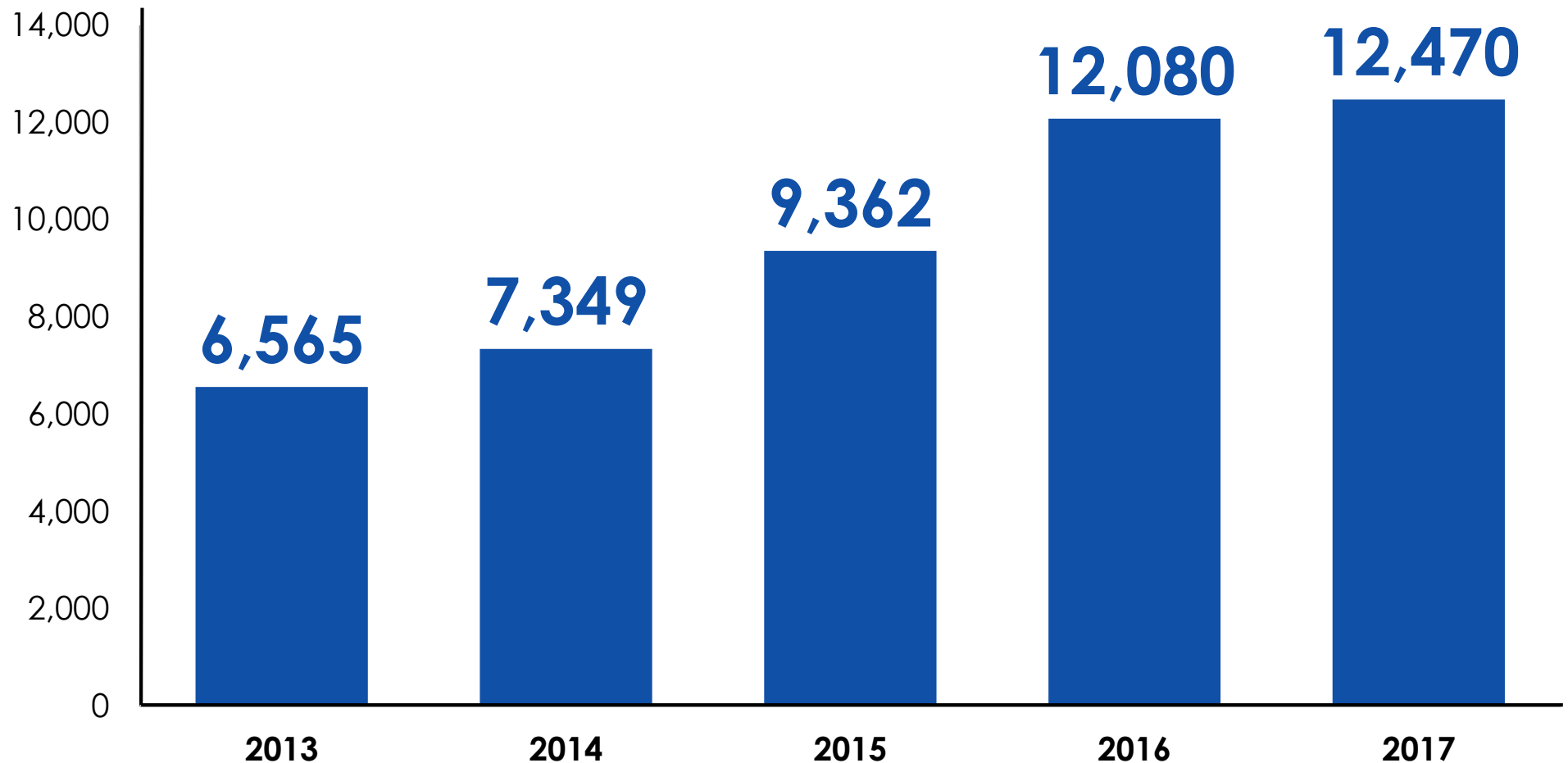
	16年12月期	17年12月期	差額	前年同期比
売上高	12,080	12,470	+390	+3.2%
売上総利益	4,367	4,386	+19	+0.4%
営業利益	474	320	△153	△32.4%
経常利益	389	326	△63	△16.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	254	△587	△841	—
EBITDA	653	497	△156	△23.9%

※EBITDA・・・営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

連結売上高の推移

過去最高を更新

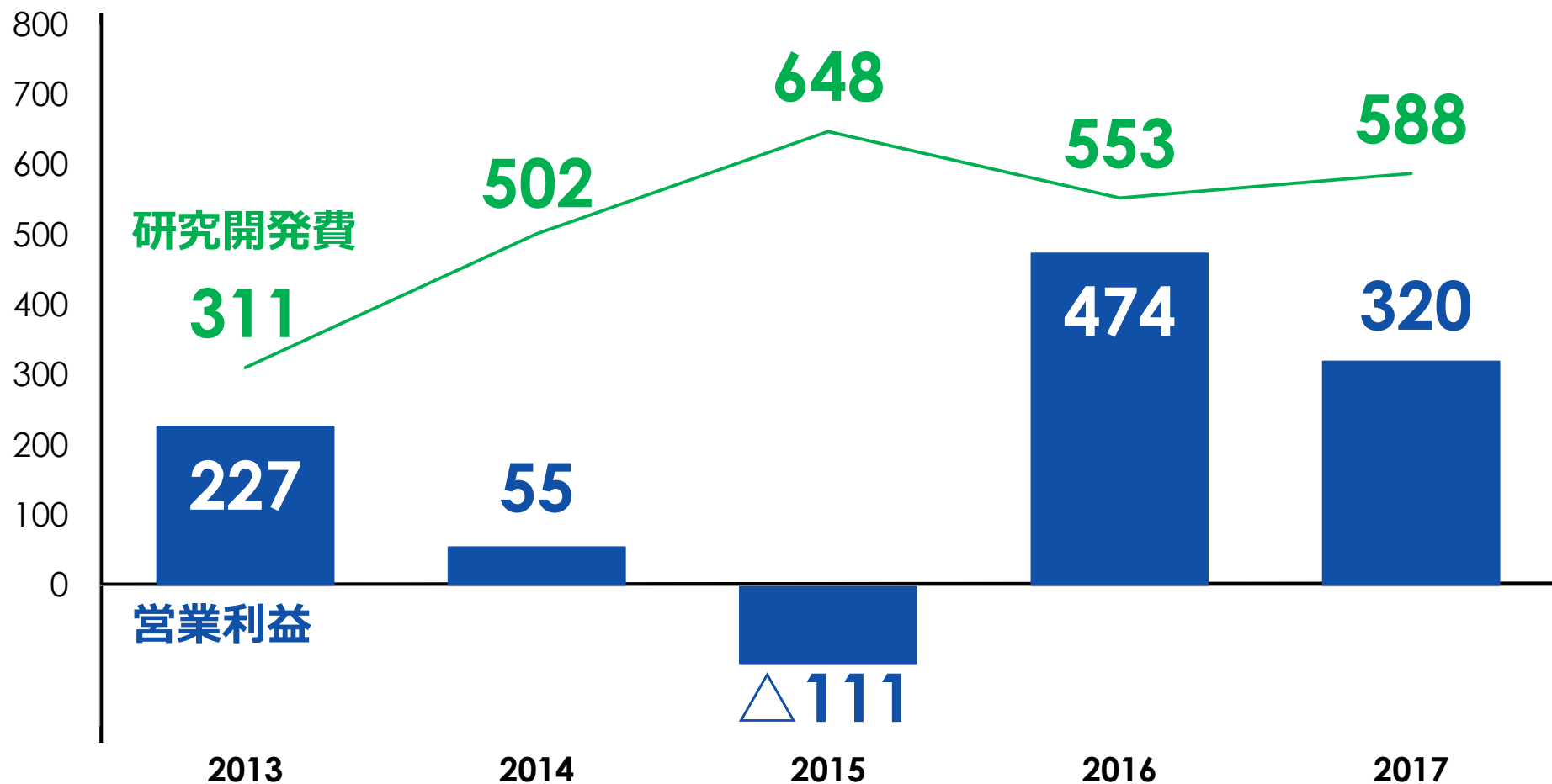
(単位：百万円)



連結営業利益および研究開発費の推移

- 営業利益は前年同期比**153百万円減益**
- 研究開発への**投資は継続**

(単位：百万円)

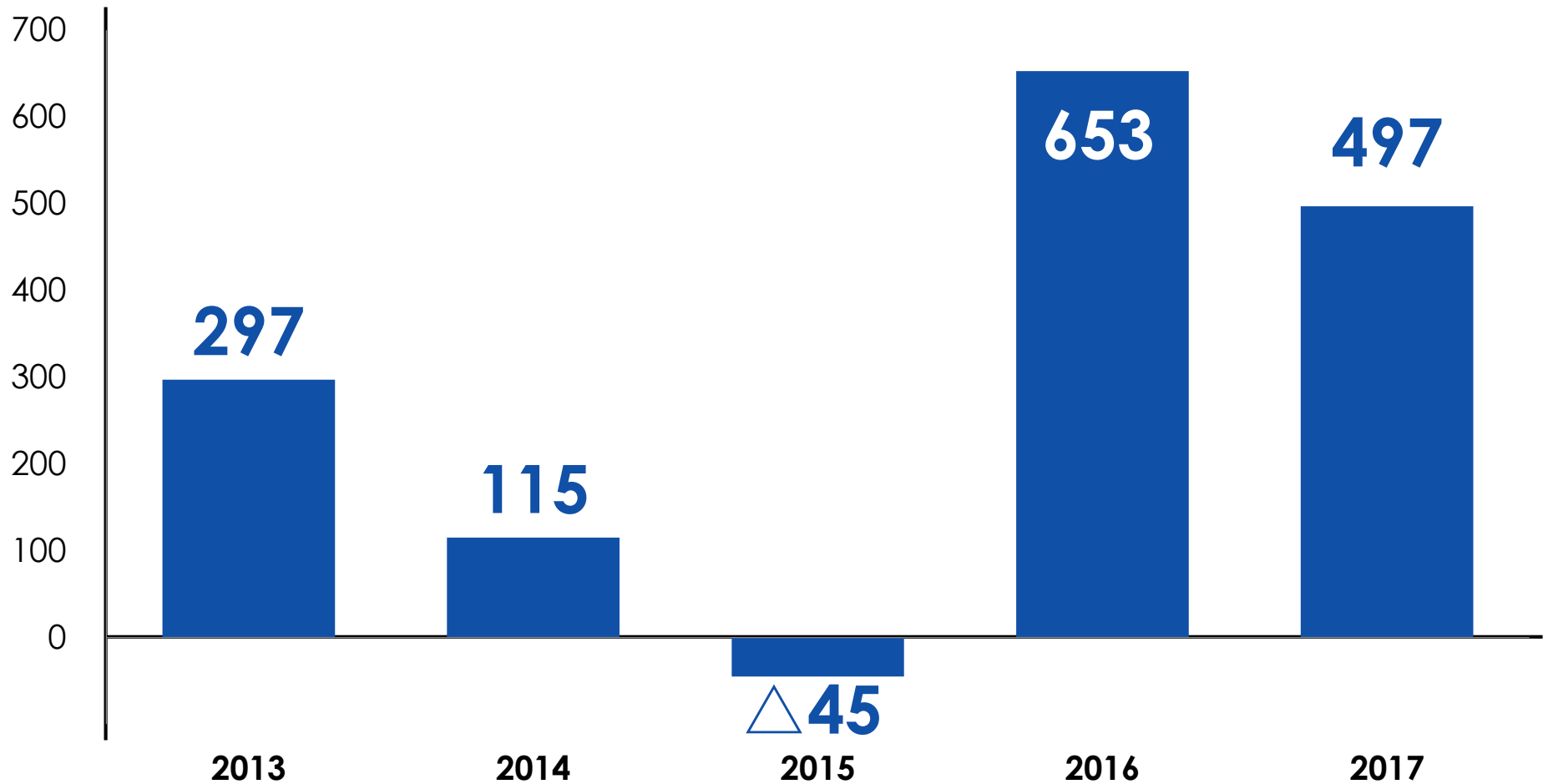


連結EBITDAの推移

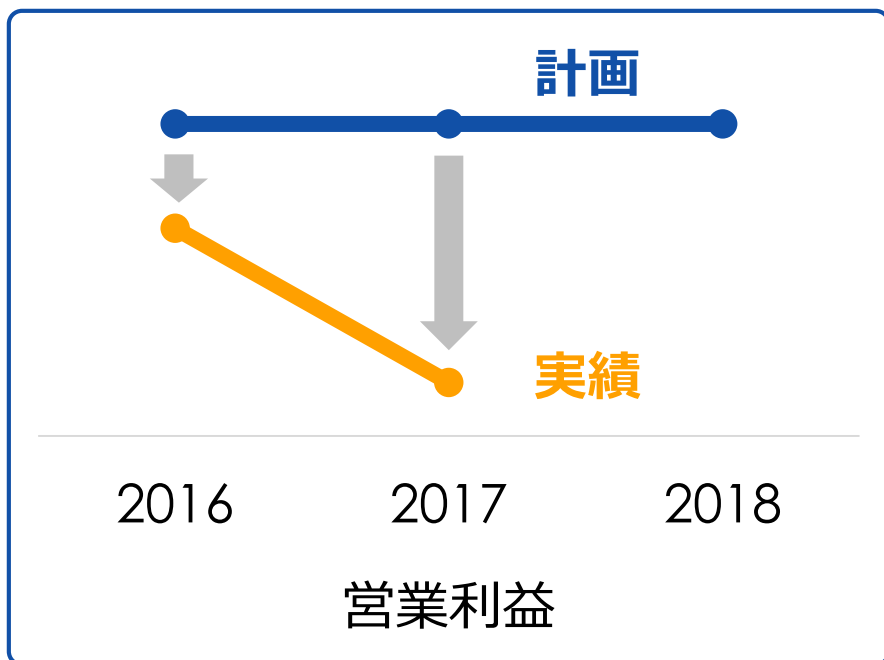


前年同期比156百万円減少

(単位：百万円)



Profit Cubeに関するのれん等の減損損失



買収時には想定していなかった
マイナス金利の導入



主要顧客である金融機関における
設備投資計画に遅れ

経緯

事業環境の変化により、
営業利益が買収時の事業計画を大きく下回る



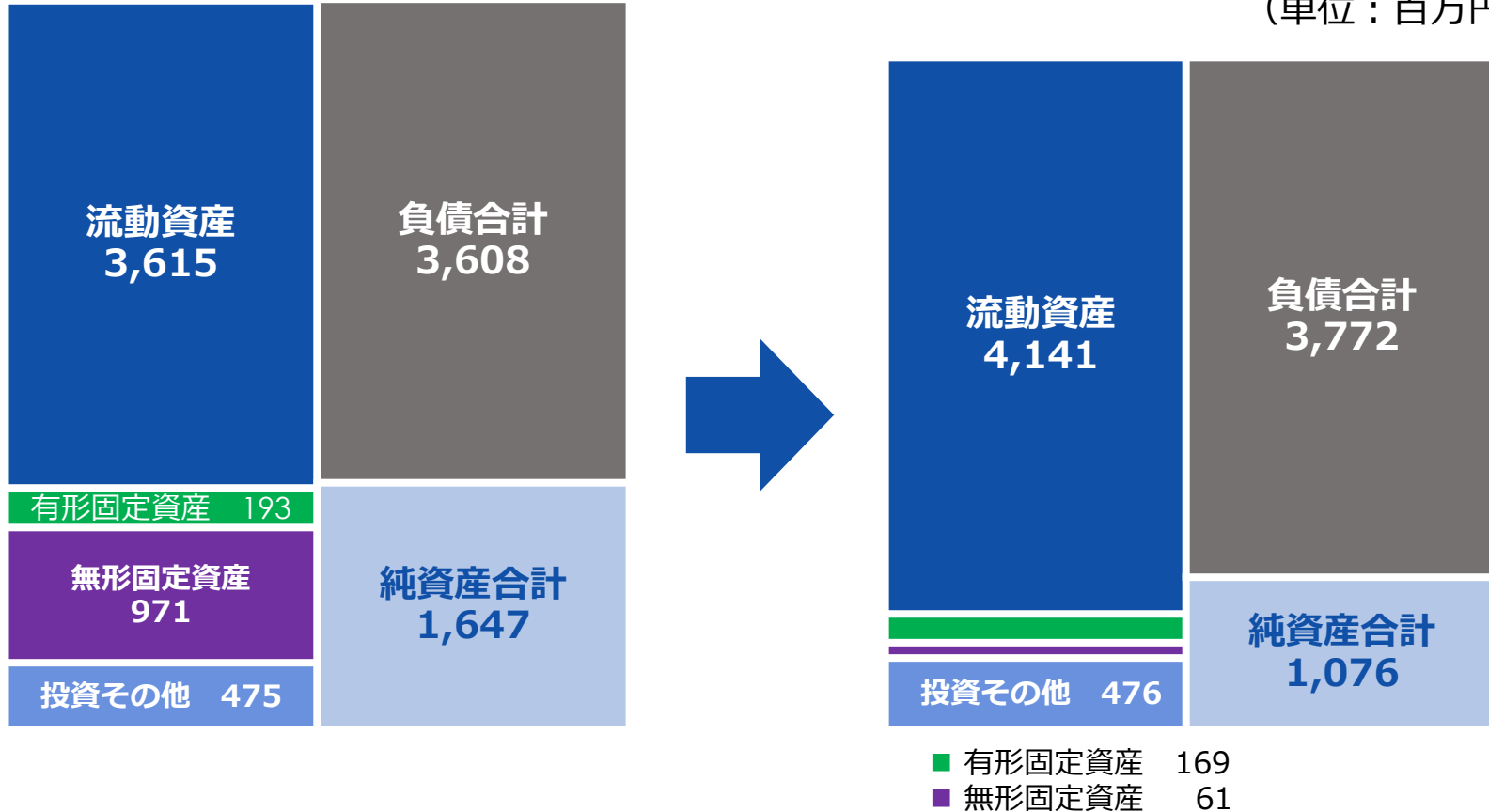
直近の実績を基礎として、買収時に計上した
のれん及び顧客関連資産について、
減損損失を計上

損失計上額

項目	金額
のれん	667百万円
顧客関連資産	133百万円

貸借対照表（連結）

(単位：百万円)

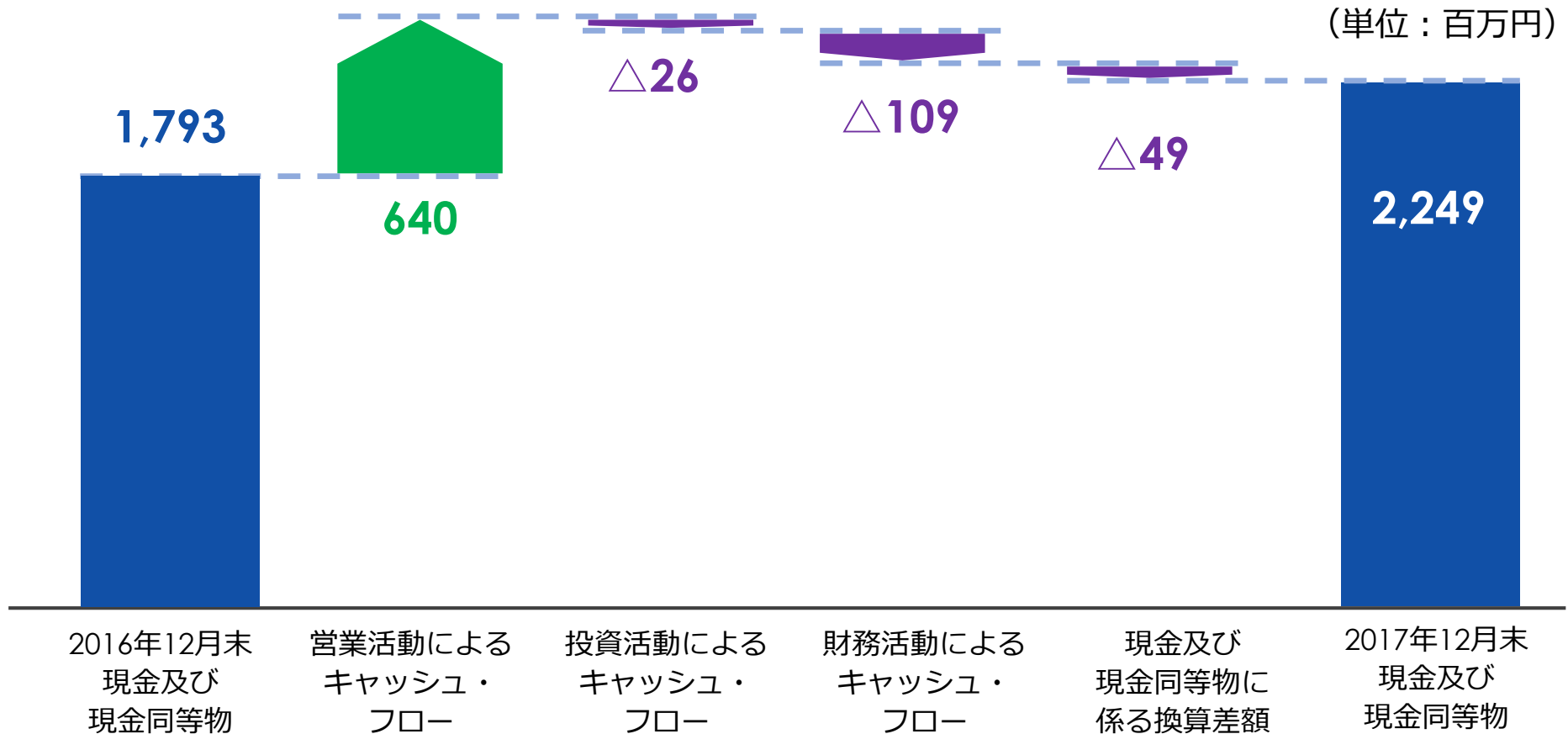


2016年12月31日

2017年12月31日

- **流動資産** : 現金及び預金が455百万円増加
- **無形固定資産** : のれんが752百万円減少

キャッシュ・フロー（連結）



- 営業活動によるキャッシュ・フローの積み上げで、
潤沢な資金を確保

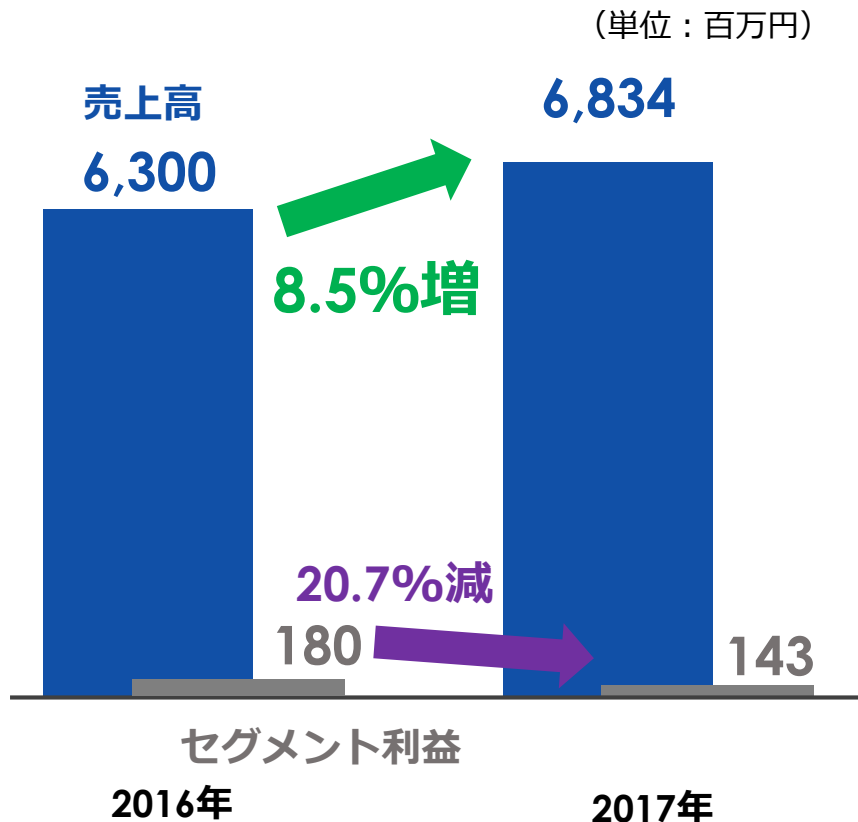
オープンシステム基盤事業

売上高

6,834百万円（前年同期比 8.5%増）

セグメント利益

143百万円（前年同期比 20.7%減）



売上高

国内

- 主力製品の「LifeKeeper*」は順調な増収
- OSS*サポートサービスやOSS関連商品は順調な増収
- Red Hat, Inc.関連商品*の販売は堅調な増収

海外

- 米州では大幅な増収

セグメント利益

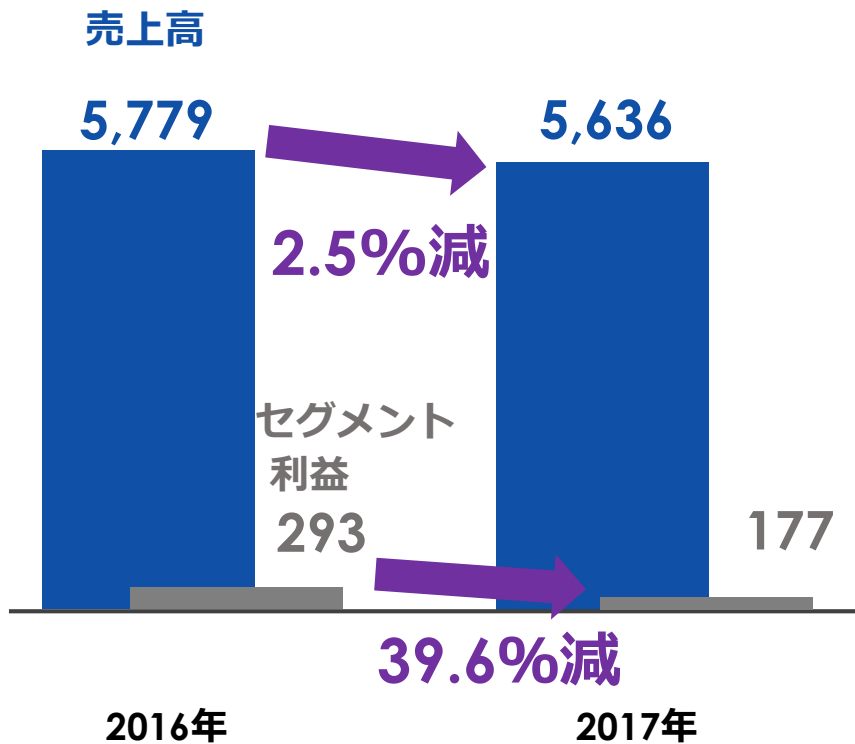
- 商品販売の粗利率低下、広告宣伝費の積み増し等により減益

※ 「*」を付した用語につきましては、34ページに解説を記載しております。

アプリケーション事業

売上高	5,636百万円（前年同期比 2.5%減）
セグメント利益	177百万円（前年同期比 39.6%減）

（単位：百万円）



売上高

- MFP向けソフトウェア*は**堅調な増収**
- システム開発・構築支援も**順調な増収**
- 金融機関向けアプリケーション製品の販売は、受注に遅れが生じており**大幅な減収**

セグメント利益

主に、以下により**減益**

- 利益率の高い金融機関向けアプリケーション製品の販売減少
- システム構築支援における大型案件の利益率低下

Ⅱ

2017年12月期の 取り組みの振り返り

中期経営戦略の基本方針

1

**Fintech*を含む
新たな領域での新規事業創出**



2

継続的な研究開発投資



3

コアビジネスの競争力強化



① Fintechを含む新たな領域での新規事業創出

金融機関向け収益管理システムで
出願した特許を正式に取得

① Fintechを含む新たな領域での新規事業創出

2017年 5月・11月

金融機関向け収益管理システムで出願した特許を正式に取得



=分析軸=

- 業種
- 企業規模
- 営業地域

金融機関は
データを
最大限活用



- 従来よりも、より**柔軟な収益分析**が可能となる新技術
- 業種や企業規模、または営業地域などを分析軸とした**収益管理**が可能
- ➔金融機関は自らが保有している様々なデータを**最大限活用**することができる
- 2016年3月に取得した特許技術と合わせて、独自に開発した収益管理システムの**知的財産価値**がより一層強固なものとなる

② 継続的な研究開発投資

パブリッククラウド上の新サービス

「SIOS Coati」発表

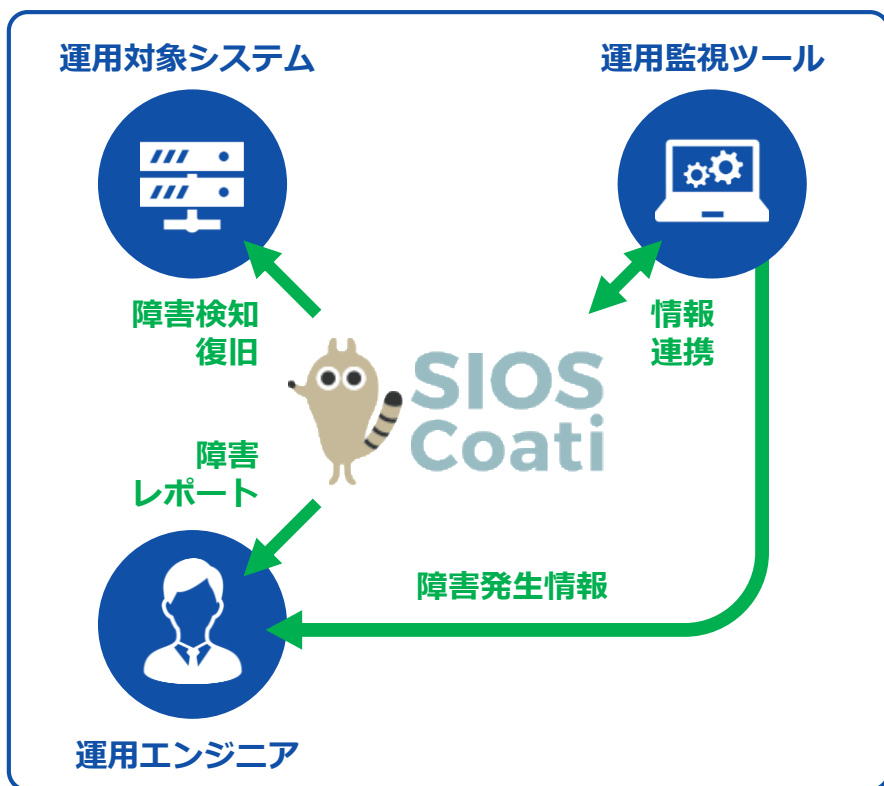
SIOS iQ の技術力が

国際的カンファレンスで評価を受ける

② 継続的な研究開発投資

2017年 2月

パブリッククラウド* 上の新サービス「SIOS Coati」発表



自動化によるコスト削減

- インスタンスの増減も**自動**で対応
→ AWS* 上の構成を気にすることなく監視が可能
- 障害を検知し、**自動回復**を実現
- **詳細な障害レポート**の提供により、原因調査、対策立案を強力にサポート



エンジニアの負担を軽減し、クラウド運用のコスト削減を実現

② 継続的な研究開発投資

SIOS iQ の技術力が
国際的カンファレンスで評価を受ける



VMwareが毎年開催している
世界最大級のカンファレンス
「VMworld 2017」

SIOS iQ が
Best of Show Finalist に
選ばれました。

③ コアビジネスの競争力強化

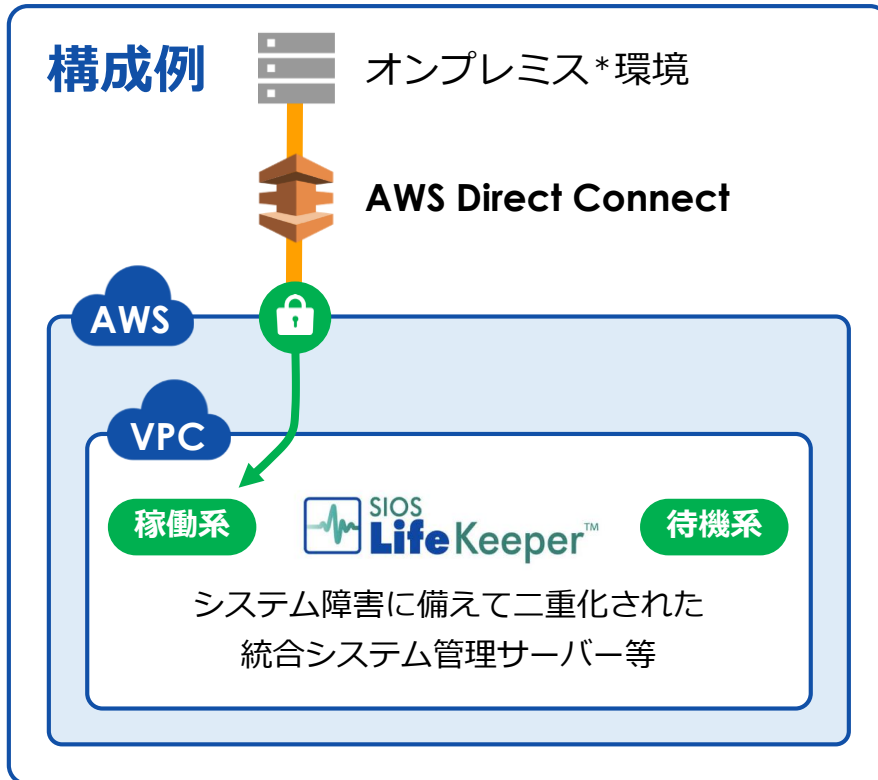
「 LifeKeeper for Linux v9.2 」

販売開始

③ コアビジネスの競争力強化

2017年 10月

「LifeKeeper for Linux v9.2」を販売開始



重点的に強化した点

- AWSとの親和性向上
- HCIへの対応
- SAPへの対応



基幹システム
クラウド化の流れに対応



2018年12月期の 取り組み

中期経営戦略の基本方針

1

**Fintech*を含む
新たな領域での新規事業創出**



2

継続的な研究開発投資



3

コアビジネスの競争力強化



① Fintechを含む新たな領域での新規事業創出

② 継続的な研究開発投資

③ コアビジネスの競争力強化

新たなビジネスモデルを確立する

金融庁検査・監督基本方針等の規制対応

金融機関自身の見える化、業務改革、IRRBB*規制などが追い風

クラウド化

金融機関においても、中核システムのクラウド化が進行
パッケージ販売から課金ビジネスへの移行により、従来よりも安定した収益獲得

機能拡大

既存製品へのAI技術の組み込み

ペーパーレスファクスソリューション

① Fintechを含む新たな領域での新規事業創出

② 継続的な研究開発投資

③ コアビジネスの競争力強化

クラウド型ソリューションにより、働き方改革を推進する

Easyファクス



FAX文書



- 受信したFAX文書を**電子化**し、
自動で**フォルダ生成**・
リネーム処理して保存

- クラウド上**への保存も可能
➔**リモートワーク環境**でも
データ確認が可能

LifeKeeper + SIOS iQ

① Fintechを含む新たな領域での新規事業創出

② 継続的な研究開発投資

③ コアビジネスの競争力強化

LifeKeeper に SIOS iQ の機械学習機能を加えることで、
基幹システムのクラウド化をさらに推進する

LifeKeeper + SIOS iQ



SIOS iQ

より高いレベルでの障害回避・運用コスト削減が可能となる

IV

中期損益計画 および通期業績予想

サイオスグループミッションステートメント

「世界中の人々のために、不可能を可能に。」

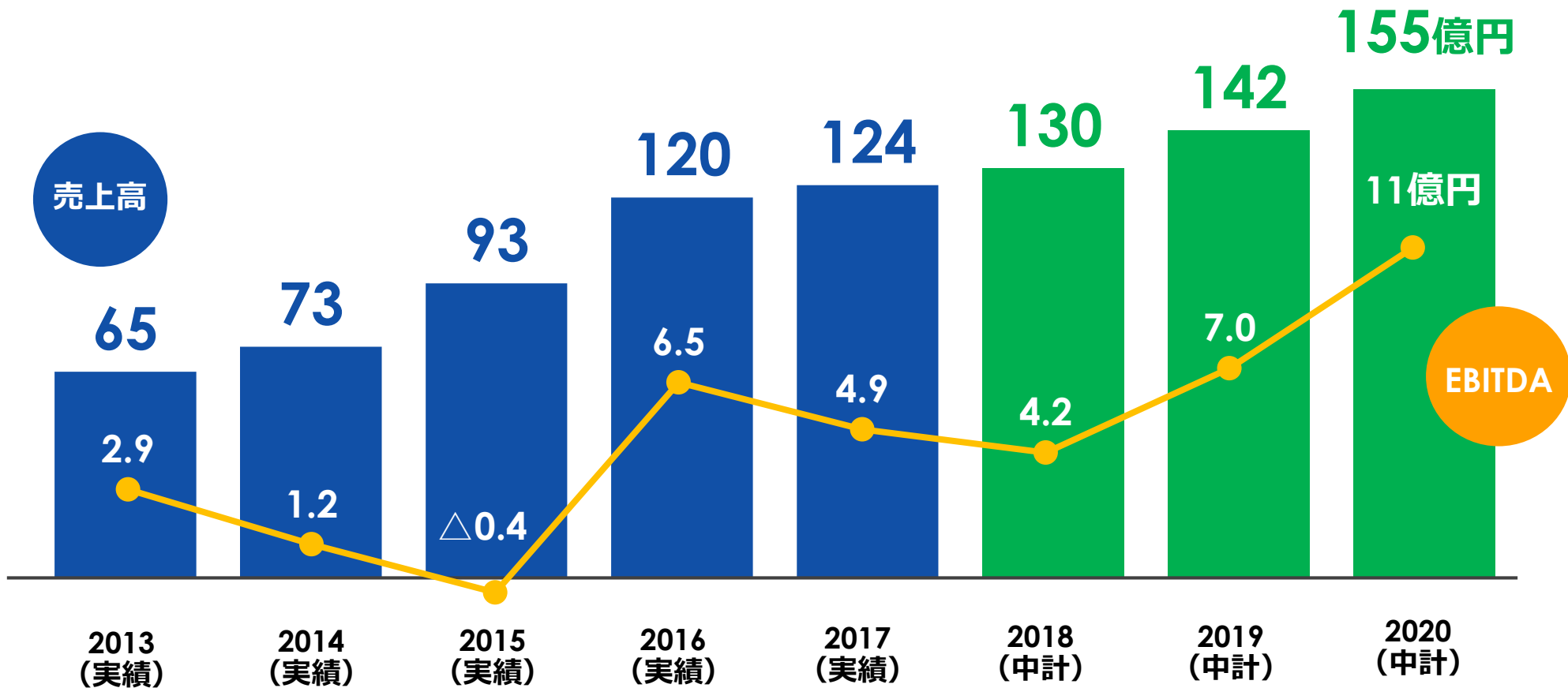
3つの「より良い社会」を意識した事業運営を目指す



ミッションの実現に向けて、着実に歩を進め基盤を固める

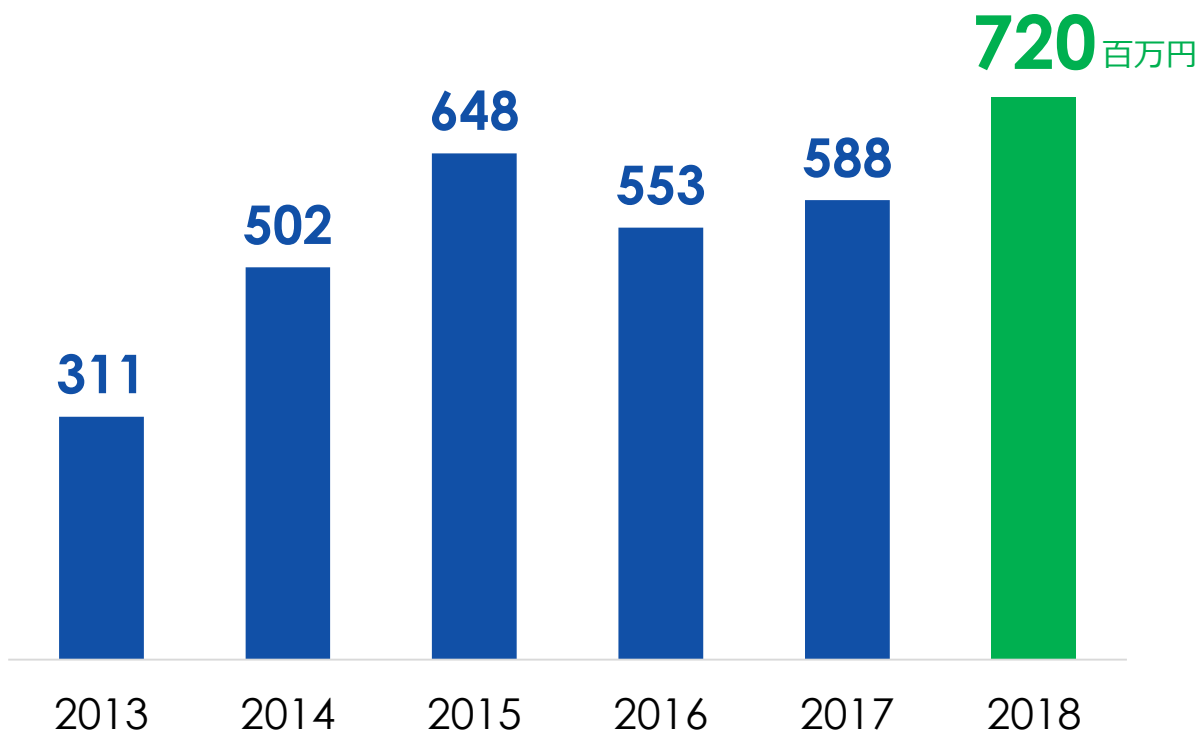
中期損益計画について

成長への基盤を固める3年間と位置付け、
2020年には売上高155億円、EBITDA11億円を目指す



研究開発費

研究開発費の推移



注力分野



AI



クラウド
サービス



Fintech

2018年12月期 通期業績予想



売上高130億円を達成し、**8期連続の増収**を計画。
 中長期的な成長のため**研究開発費の増加**を見込むものの
効率的な事業運営により、営業利益3.3億円を目指す。

(単位：百万円)

	17年12月期 実績	18年12月期 業績予想	差額	前年同期比
売上高	12,470	13,000	+530	+4.2%
営業利益	320	330	+10	+2.8%
経常利益	326	330	+4	+1.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	△587	260	+847	—
EBITDA	497	420	△77	△15.6%

配当について

当期の配当予定

2017年12月22日に公表しましたとおり、
当期純損失となったことから、期末配当を見送らせていただきます。

中長期的な利益成長を通じて財務基盤を強化し、早期に復配できるよう努めてまいります。

	第21期 2017年12月期 (当初予想)	第21期 2017年12月期
年間配当	5.00円	0.00円

サイオスについて



SIOS is Innovative Open Solutions

本社	東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル
資本金	1,481百万円
設立	1997年5月23日
社員数	連結470名 (2017年12月31日現在)
主な 連結 子会社	サイオステクノロジー (日) SIOS Technology Corp. (米) グルージェント(日) キーポート・ソリューションズ(日) Profit Cube (日)

サイオスは、Linuxに代表される**オープンソースソフトウェア**の開発と利用を軸に、自社開発ソフトウェア製品の販売とサービスの提供を行っています。直近では、**AI (人工知能)**、**Fintech (金融技術)**、**クラウドコンピューティング**の技術領域に注力し、次世代を支える新製品とサービスの提供を開始しています。

これからも**革新的なソフトウェア技術**を追求し、世界のIT産業に影響力のある存在、「**インフルエンサー**」となって価値を創造し、社会の発展に貢献してまいります。



項	用語	説明
11	LifeKeeper	本番稼働のサーバーとは別に同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うソフトウェア。
11	OSS (オープンソースソフトウェア)	ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを無償で公開し、使用・改良・再配布ができるソフトウェア。
11	Red Hat, Inc.関連商品	オープンソースソフトウェア&サービス・プロバイダーRed Hat, Inc.が開発するオープンソースの製品。
12	MFP向けソフトウェア	プリンタ、スキャナー、コピー、FAX等複数の機能を搭載した機器をMFP(Multifunction Peripheralの略)という。MFP上で利用できる文書管理ソフトウェア「Quickスキャン」「Speedoc」等。
15	Fintech (フィンテック)	Finance (金融) とTechnology (技術) の融合による新たなテクノロジー。
19	クラウド	コンピュータ処理をインターネット経由で利用できるサービス。
19	AWS (アマゾン ウェブ サービス)	Amazon社が提供するクラウドサービス。
22	オンプレミス	情報システムのハードウェアを自社施設内に設置してシステムを導入・運用すること。クラウドの対義語。
24	IRRBB	「銀行勘定の金利リスク (Interest Rate Risk in the Banking Book) 」の略称。金融庁では、金融機関に対して、金利リスクの管理に関する規制強化を予定している。

ご留意事項

業績予想につきましては、現在入手している情報に基づいた当社の判断であり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要素により業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向などが含まれております。但し、業績に影響を与え得る要素は、これらに限定されるものではありません。

本件に関するお問い合わせ

サイオス (IR)

Tel : 03-6401-5111 (代表)

Webによる場合はこちらからお問い合わせください

https://lp.sios.jp/MRK_Inquiry_IR.html



SIOS